

1 学校の状況と地域の実態

- (1) 重点研究授業や学年研究、ベテラン教員も参加するメンターチームの研修など、日々の研究・研修は自主的に行われ、日常化している。しかし、見通しをもった、継続的な研修の体制はまだ試行錯誤の段階である。評価も見据えた研究活動の充実には、さらなる工夫が必要であるが、開校2年目という、新しい学校の歴史の中で、教職員、児童、保護者、地域の方々などと創生していくという共通目的をもって実現に向かって努力している。
- (2) 配慮を要する教育的支援が必要な子どもへの対応を担当・管理職・児童指導専任・スクールカウンセラーなどとも情報共有を密にしながら、児童にとってよりよい学習・生活体験を行える体制の構築をめざしている。
- (3) 学校以外でも学習の機会をもつ児童が過半数をしめ、学力の向上の必要性を感じている保護者の影響もあり、高学年になるにしたがって、学力の向上を意識している子どもが多い。学習状況Aの児童が、市の平均に比べ約1.5倍、Dの児童は半分以下という、調査結果からも実証されている。
- (4) 地域で学校ボランティアをしてくださる方も多く、英語・読書活動、児童の安全、保護者・地域の連携を図る催し物なども積極的に行われている。

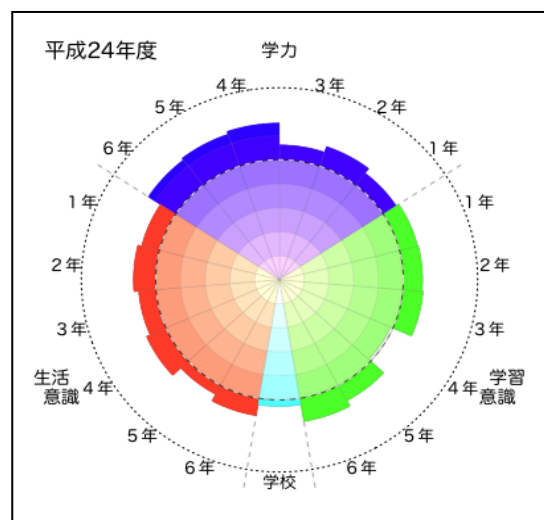
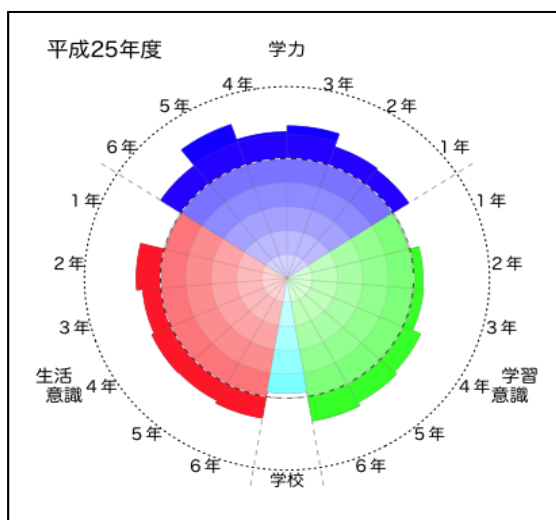
2 中期学校経営方針「確かな学力」 達成目標

学力向上に関する指導の目標・方針（平成27年度末の姿）

豊かな『感性』と確かな『学び』をめざし、

- 自ら学び、考え、ともに学び（高め）合う子どもを育てます。
- さまざまな学習活動を通して感性豊かな子どもを育てます。
- 人と人、地域とのつながりを大切にする子どもを育てます。
- 国際社会へと視野を広げる子どもを育てます。
- 放課後における研修・研究時間を週一回は確保し、実践的な研修・研究を組織的に行っていきます。

1 横浜市学力・学習状況調査等からの実態把握



友だちとのかかわりの中で、互いに学び、高め合おうとする子どもの育成 ～小集団による学びを効果的に取り入れた授業の実現～

1 分析チャートからの考察

■ チャートの傾向

- 学力、学習意識、生活意識と、すべての領域において市平均を上回っている。
- 特に、3年生と5年生の学力の高さが顕著である。
- 生活意識はほぼ均等である。
- 学習意識はどの学年も高い。

■ 分析

- 学年に関係なく、各教科の学習に対して「好き」や「大切であると思う」と回答する児童の割合は市平均を上回るとともにほぼ均等である。
 - 学習集団としてみたとき、総じて学習意欲が高いために、「子どもにとってわかる、魅力ある授業の創造」が不可欠である。定着のみを目的としたドリル的な学習活動や、知識を注入する「しっかり教える」視点にのみ指導が偏ると、学習集団は物足りなさを覚えると考えられる。グループ学習などの意見交換をしながら思考力や判断力を高め、「しっかり引き出す」授業展開が求められているといえる。
 - 同時に、各学級の個々の児童の特性をつかみ、それぞれの持ち味や課題を集団の学びにどう位置づけるか、学びそのものをどのように保障していくか、という点について、質の高い指導が求められているともいえる。個と集団の学びを保障するための授業の創造に厳しく立ち向かう必要がある。
- 生活意識調査の結果をみると、一見、「十分である」と認識してしまう。一方、「学力に比べて生活意識の高まりは低い（特に3年生以上）」ということもいえる。
 - 規範意識を高めるために、適切な行動を常に評価しつつ、不適切な行動については的確に指導を重ねていくことが求められている。「話の聴き方」「学用品の使い方」「学びのルール」を定着させることに、よりいっそう努力するとともに「この場面でのようにするのがベストな選択なのか」「集団にとってよりよい結果をもたらすためにどのように行動すればよいか」について、問題解決的な展開を進めていく指導が有効だと考えられる。
- まちの行事への参加については、高いとはいえない。本校の地域性を考えたとき、地域を基盤にした学びの創造はきわめて有効であると考ええる。行事に参加することで地域を見直し、地域を学びに取り入れることで自分自身を伸ばしていけると認識させることが必要であると考ええる。

2 平成26年度 目標と具体的方策

日々の授業では、一斉授業だけではなく、教材によってグループ学習を取り入れながら効果的な学びができる授業をしている。本校の児童の実態から、昨年度に続き、小集団による学習を取り入れることで、児童が人と関わることの楽しさや自信をもって発表できる児童が多くなることを目指している。また、発表だけの聞き合いだけではなく、発表、聞き合い、比べ合いをすることで友達の考えを自分に取り入れることができ、考えの幅が広がったり、人とかかわることの楽しさを味わったりすることができる。このことをふまえ、問題解決的な学習を取り入れた授業から児童が問題意識をもち、その解決に向けて仲間と学び合いながら追究していく授業を行う。

子どもたちの課題を踏まえ、子どもたちのよさを生かした高い学びにしていくために、昨年度から小集団による学びを効果的に取り入れた授業を目指した。小集団での話し合いでは、一つのグループの人数が少ないことから、発言が苦手な子どもも気軽に発言できたり、全員が授業に参加したりすることができる。小集団による学びを授業内に取り入れた結果、普段の授業で発言がない子がグループ内で堂々と自分の考えを言うことができたり、自分の考えを聞いてもらったことで、認められたと感じる子が増えたりした。今年度も同様に小集団によるグループ学習を効果的に取り入れることで、自分から友達と関わる場面を多くつくり、自信をもって自分の考えを発言したり、友達の考えを最後まで

聞き考えを深められたりする子を育てたいと考える。

(1) キーワードのとらえ

■豊かな感性

○自分をとらえる

- 自分の持ち味、課題を発達段階に応じて自覚し、その伸張と改善に取り組めるようにする。
- 自分に向き合い、自己を受容するとともに自己を高めることに喜びをもてるようにする。

○他者をとらえる

- 家族、友人、地域の方々、社会そのものと望ましいかかわりをもてるようにする。

○周囲をとらえる

- 文化、自然、歴史などに興味をもち、ものや事柄を自分の生き方に取り込めるようにする。

■確かな学び

○着実な学び（教員の視点では「しっかり教え」）

- 基礎・基本の定着を徹底する。

○問題解決的な学び（教員の視点では「しっかり引き出す」）

- 情報を的確に受け取り、それらを調査・分析したり、関係づけたりして問題の解決をはかれるようにする。

(2) 個々の取組

■集団での学びの充実

- 一人ひとりの問題意識をもとに学級の学習問題を設定し、小集団で考え合いながら、問題の解決に向けて追究していくような学習展開を心がける。

- 取り上げる言語活動に対して、その表現の特徴をもとに、発達段階に応じた（低・中・高別に）指導内容を明確にした授業づくりを行い、言語活動の充実に努める。

- 語彙力、情報活用能力を育成するために、学校図書館・PCスペースを充実させるとともに、読書活動や調査活動を重視する。

■個に応じた指導の充実

- 自分の感じたことや思ったことだけでなく、友だちの考えに対する自分の考えを書くことができるようにする。また、書いたことを友だちに伝える場面を設定する。

- 子ども一人ひとりの興味関心や学習状況などを座席表に記録したり、それをもとに指導案を作成したりしながら個を生かした学習指導を行う。

- 保護者の希望に応じて特別支援教室を組織的・計画的に活用する。

- 20分間の中休みを生かし、校庭でいっしょに遊んだり教室で会話したりするなど、教職員はできる限り子どもの姿を直に見つめられるようにし、児童理解に努める。

■家庭・地域との連携

- 学校運営協議会発足も含めながら、授業参観や運動会等、様々な場面で地域や保護者の方に評価していただき、学校と地域や家庭が共通理解をもった学校運営を実現する。

- 家庭と連絡を密にし、コミュニケーションを取り合いながら情報共有や指導の方向を合意し合い、家庭生活を基盤にした学習・生活指導の確立を目指す。

- 美しが丘西保木地区の文化的・人的な資源を学校教育に取り込み、本校が「地域の全ての方方にとっての学びの拠点」となるようにする。

(3) 組織の取組

■「教師として切磋琢磨しあえる同僚性をはぐくみ、互いを高め合う」ことを目指す。

- 本校の教育課程を作成する過程で学力向上に向けたキーワードを視点とした「研究授業」を実施する。

- 各教科領域の教材研究に取り組むとともに各学級の子どもの様子を語り合い、個の理解を深める。